

地方創生推進交付金事業の実施状況について（平成30年度）

- 地方創生推進交付金は、平成28年4月に創設された地域再生法に基づく法定交付金で、補助率は1/2となっています。（国の平成30年度予算額1,000億円）
 ○平成30年度は、8事業を国に交付申請の上、実施しました。（総事業費207,940,364円、うち交付金充当額103,970,180円）
 ○なお、事業実施による効果については、それぞれ設定しているKPIを踏まえ、8事業のうち7事業で「地方創生に非常に効果的であった」または「地方創生に相当程度効果があった」と判定しているところです。

地域連携による健康・医療ものづくり推進事業

東葛テクノプラザ内に設置した医療機器開発・交流拠点を中心に、今後市場拡大が見込まれる健康・医療分野への県内中小企業の新規参入の促進を図った。

【事業費】57,537,923円

（うち交付金28,768,961円）

【KPI】医療機器等の共同開発件数

：実績10件（目標10件）

【事業効果の判定】地方創生に非常に効果的であった



支援事例 (FOCAL TONE)

【国による事業効果の判定基準】

- ①地方創生に非常に効果的であった（例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合）
 ②地方創生に相当程度効果があった（例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合）
 ③地方創生に効果があった（例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合）
 ④地方創生に対して効果がなかった（例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合）

“一人ひとりの働きたい”をかなえる「働き方改革」推進事業

セミナー等を通じて「働き方改革」への取組を希望する企業に対し、「働き方改革」アドバイザーを派遣するなどの支援を実施した。

【事業費】16,477,460円（うち交付金8,238,730円）

【KPI①】「働き方改革」アドバイザーを活用して

働き方改革に取り組んだ企業数

：実績22社（目標20社）

【KPI②】地域相談会実施回数：実績5回（目標2回）

【事業効果の判定】地方創生に非常に効果的であった



働き方改革好事例集

ちば・いちご産地活性化事業

県が開発したいちご新品種「チーバベリー」について、イベントなどによるPR活動に取り組むとともに、外国人観光客の受入体制やホテル・飲食店との連携を強化することで、いちご生産者の所得向上・県内観光客の増加・地域の活性化を図った。

【事業費】7,697,571円

（うち交付金3,848,785円）

【KPI】観光いちご狩り来園者数

：実績28,890人増加

（目標13,000人増加）

【事業効果の判定】地方創生に非常に効果的であった



いちご仕様のチーバくん

新しい「人の流れ」から「しごとの場」まで地域一体で創造する千葉創生事業

(1) 地域しごと支援センターちば事業

【事業費】27,000,000円（うち交付金13,500,000円）

(2) ちば新農業人サポート事業

【事業費】12,917,553円（うち交付金6,458,776円）

(3) 地域で育てる新農業人研修事業

【事業費】1,437,000円（うち交付金718,500円）

(4) 空き公共施設等を活用した

企業進出支援事業

【事業費】15,984,000円

（うち交付金7,992,000円）



空き公共施設等視察ツアー

(5) ちば起業家応援事業

【事業費】15,000,000円（うち交付金7,500,000円）

【KPI①】地域しごと支援センター利用者数：実績500人（目標200人）

【KPI②】新規就農者数：実績341人（目標450人）

【KPI③】空き公共施設等への進出企業数：実績10社（目標5社）

【KPI④】企業と市町村とのマッチング件数：実績154件（目標100件）

【KPI⑤】起業家応援イベントの参加者数：実績2,200人（目標2,500人）

【事業効果の判定】地方創生に相当程度効果があった

プロフェッショナル人材戦略拠点事業

潜在成長力のある中小企業の経営者に、「攻めの経営」への転身を促し、その成長戦略実現のため必要となるプロフェッショナル人材の採用を支援した。

【事業費】38,570,680円

（うち交付金19,285,340円）

【KPI①】中小企業への相談件数

：実績308件（目標200件）

【KPI②】プロフェッショナル人材の県内

中小企業における正規雇用件数

：実績68件（目標15件）

【事業効果の判定】地方創生に非常に効果的であった



千葉県プロフェッショナル人材戦略拠点パンフレット

落花生新品種を軸とした産地活性化事業

県が開発した落花生新品種「Qなっつ」のデビューを契機として、県産落花生のPRや、従来は手作業で行っていた播種・収穫作業への省力化機械導入実証等を行った。

【事業費】5,183,129円

（うち交付金2,591,564円）

【KPI】既存品種（ナカテユタカ）から

新品種（Qなっつ）に置き換え

た場合の販売増加額

：実績16,029千円（目標11,500千円）

【事業効果の判定】地方創生に非常に効果的であった



Qなっつデビューイベント

地方創生総合プロデュース事業（果樹（びわ・かんきつ）園を活用した地域活性化事業）

既存花き施設を活用し、比較的労力を要しない中晩柑柑橘への転換モデル園を設置するなど、新品目の導入を図るとともに、南房総地域の交流人口を増やすため、農業体験モニターツアーを実施した。

【事業費】4,484,972円

（うち交付金2,242,486円）

【KPI】新技術・新品目導入により施設

栽培に取り組む果樹生産者の

増加人数：実績1人（目標3人）

【事業効果の判定】地方創生に効果があった



既存花き施設からの転換による中晩柑柑橘モデル園

「房総ジビエ」の魅力発信プロジェクト

獣肉解体従事者の育成研修を行うとともに、房総ジビエの消費拡大を図るため、「房総ジビエコンテスト」や、飲食店がジビエ料理を提供する「房総ジビエフェア2019冬」を開催した。

【事業費】5,650,076円（うち交付金2,825,038円）

【KPI①】イノシシ肉処理頭数

：実績214頭（目標261頭）

【KPI②】県内処理加工施設の販売額

：実績8,560千円（目標10,440千円）

【KPI③】房総ジビエフェアに参加したことのある

飲食店の累計数：実績62件（目標55件）

【事業効果の判定】地方創生に相当程度効果があった



房総ジビエフェア